技術職員の職階については、従来の課 長、班長、係長、主任、及び係員から、 主任技師、技師、主任技術員、及び技 術員という四つの職階に改め、上位職 階への移行は、主に技術力によって評 価する制度としました。ユニット長は、 任期付の併任職とし、主にマネジメン ト力によって評価されます。この改組 により、ユニット内の技術職員同士の 連携が生まれ、より手厚く効率的な技術支援に繋がることが期待されます(48ページに関連記事)。

(繁政 英治 記)



事業報告

## 分子研討論会とUVSORオープンファシリティ

報告:光分子科学研究領域 解良 聡

UVSOR施設は1983年11月に「初 点」を発しました。その後、国際的に も珍しい形ですが2度の光源加速器高 度化に成功し、現在では赤外・真空紫 外光から軟X線領域をカバーする世界 的競争力をもつ低エネルギー帯放射光 施設として運用されています。ビーム ラインは14本あり、海外からの第一線 の研究者が利用に来るような競争力の ある先端ビームライン6本を中心に実 験設備の重点整備を進めています。一 方で10年も経つと実験設備は陳腐化 してしまうことが常ですので、マンパ ワーと予算を集中し持続的かつ効率的 にビームラインの高度化を進めており ます。しかし加速器と蓄積リングの一 部には38年前の古い機器が残されてお り老朽化対策が必須です。詳細は分子 研レター81号に記載しましたのでそ ちらもご高覧ください。

国内全体を見渡すと、"失われた20年"を経てようやく我が国にも高輝度中型放射光施設の建設が2018年末に決定し、3 GeVの東北新リング計画として2023年の完成に向けて粛々と

工事が進められています。触発される ように、量子ビーム関連施設のあり方 が総合的・俯瞰的に問われております。 UVSORは今後10~20年を考えると 老朽化による影響は必至で、しばらく は設備の継続的な高度化で対応できた としても、長期的計画として抜本的に 設備を刷新するような次期施設建設を 算段する時期にあると言えます。次期 施設の実現には多くのハードルが想定 されますが、共同利用機関としての研 究所のあり方に対する所内コンセンサ スの確認と同時に、次施設を支えるポ テンシャルユーザーの開拓が重要であ ると認識しました。また折しも次期分 子研所長の選考に向けた議論が開始さ れる時期でもあったことから、分子研 の未来を考える上でのマスターピース として大型施設のあり方を分子研内で 考えていただこうという事に至りまし た。

本稿では上記の背景をふまえ、分子研討論会「分子研における大型施設の将来を考える」2021年1月13日(ハイブリッド会議)、UVSORオープンファ

シリティ 2021年5月17日 (オンライン会議+オンサイト見学会) の2つのイベントについて紹介します。

討論会では「UVSORの37年間と現状」と題して施設長から説明したあと、「先端ビームラインの研究成果例」として施設研究者である田中、平、松井から、BL5U、BL6U、BL1Uについて研究成果や開発の進捗について説明しました。その後、「次期UVSORのビジョン」と題して、施設長から次期施設の草案が提示され議論が行われました。クローズな議論の場とし忌憚のない意見を伺う目的で、所内PIのみを対象として行われました。約4時間にわたり時間を共有したことで、UVSOR施設について知り・将来を考えるよい機会となったと思います。

続いて所内の若手研究者や学生に施設設備の詳細を知ってもらい、需要開拓や新規ユーザー獲得につなげる試みとして、「オープンファシリティ」と題して施設紹介の機会を設けました。参加者は40名強(施設関係者を除く)でした。施設概要を説明したのち、ビー

ムライン全14本について主な計測法 の観点から分類し、約2時間半にわた り各担当者から説明を行いました。そ の後、UVSOR現地で見学会を開催し、 実機を前にして質問に答えるスタイル となりました。また実際に課題申請を 意識したより深い議論ができるように、 希望者には「個別相談会」として担当 者と密に議論できる機会を翌週に設け ました。その後、いくつかの共同研究 の展開も具現化され、本会が効果的で あったことが示唆されます。

今後は、所外の研究者と次期施設 建設へ向けた意見集約、次世代を担う 若手研究者へ向けた啓蒙活動、あるい は毛色は変わって技術者の確保へ向け た学生への広報なども検討しています。 次期施設の建設に向けては多くの困難 課題が山積しますが、可能なことはす べからく検証し、対応していくことで その実現へ一歩でも近づけられたらと 考えます。引き続き多方面からのご協 力をお願いいたします。

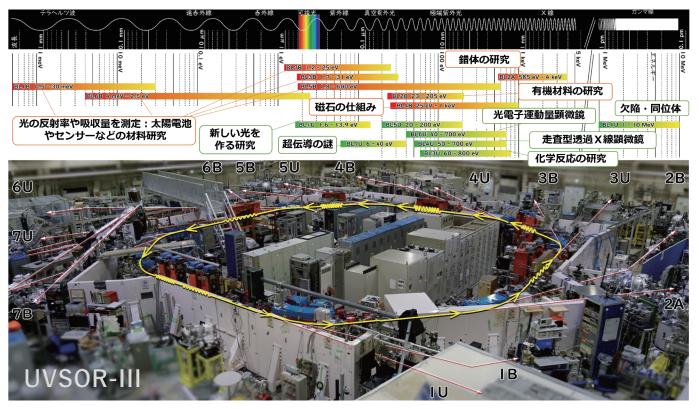


図1 UVSOR施設がカバーする光の波長領域とビームライン実験設備。